

学生さんもおすすめ！
＼新任の先生のご研究をのぞいてみませんか／

人間科学セミナー

申込み
不要



6.12 (木)

13:30-15:00

人間科学研究科 北館2F ラーニングcommons



共生学系
コミュニティ学講座

佐藤 桃子 先生

13:30 -



行動学系
行動生態学講座

萩原 広道 先生

14:00 -



行動学系
行動生態学講座

西村 剛 先生

14:30 -



大阪大学大学院人間科学研究科

附属 未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

佐藤 桃子 先生 / 共生学系 コミュニティ学講座

デンマークに学ぶ子ども家庭福祉

子どもたちを取り巻く福祉は、現在の日本社会では大きな変化の只中にあります。こども基本法成立、こども家庭庁の設立によって、子どもの権利についての意識が高まり、子どもの声を聴くことを重視した法整備がされるようになりました。社会福祉制度やソーシャルワーク（相談援助）実践の在り方は国によって、また時代によっても異なります。今回のお話では、日本の福祉課題に焦点を置きつつ、北欧の福祉国家デンマークではどのような子ども家庭福祉が行われているのかをご紹介します。デンマークは子どもの権利を重視する国で、教育費は大学院まで無料、育児休業などの子育て支援政策も充実しています。たとえば支援が必要な子どもに対するミクロな福祉実践では、どのように子どもの権利を尊重した実践が行われているのか、そしてそれは日本と違うのかどうか…。デンマークのソーシャルワーカー達への調査をもとにご報告します。

萩原 広道 先生 / 行動学系 行動生態学講座

ことばの発達の不思議： 世界の認識をつくる子ども、子どもによって関わりを変える大人

みなさんは、自分がどうやって言葉を身につけてきたか、おぼえていますか？ 言葉をおぼえる過程には、さまざまな不思議が詰まっています。ハンカチのことを「鼻」と言う、鉄棒を「ブランコ」と呼ぶ、「疲れた！」と言う子どもに「じゃあ走ろっか」と返したら走る、などなど…。本講演では、そんな大人のリクツとはちょっと違う、子ども独自のことばの世界とその発達について、発達認知科学の立場からご紹介します。さらに、近年の研究から、子どもの様子や発達の状況に応じて、養育者は子どもへの関わり方を柔軟に調整していることが明らかになってきています。ことばの発達というプロジェクトに参加する大人の「ファインプレー」についても、最新の知見をご紹介します。子どもの頭のなかで、または子どもを取り巻く社会的環境でどんな変化が起こっているのか、目を凝らしてみないとわからない発達の「舞台裏」を一緒にめぐってみましょう！

西村 剛 先生 / 行動学系 行動生態学講座

ヒトの言語進化をサルに問ふ

ヒトは、言語を持つ唯一の存在です。ヒトは多様な音素を連ねて会話しますが、ヒト以外の霊長類(サル類)にはできません。その会話を成立させるには、声帯を長く安定して振動させる必要があります。サル類の声帯には声帯膜という付加構造があるのに対して、ヒトではそれがありません。声帯膜があると、声帯振動が不安定になりやすいことがわかりました。つまり、声帯膜の喪失という解剖学的な単純化が、ヒトの複雑な音声行動の進化をもたらしたと言えます。この研究で使用したサル類43種の標本は、50年以上もの歳月を経て受け継がれてきたものです。また、チンパンジーの声帯振動の観察データは、先人が残してくれた遺産です。何の気なしに行った在外研究先での出会いがなければ、声帯の形態解析や振動実験をすることもなかったでしょう。別々に走っていた共同研究がとある偶然から一つに結実していく様子を語りながら、私たちの研究のありようを紹介します。



大阪大学大学院人間科学研究科

附属 未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp